

東京2020オリンピック・パラリンピック聖火リレー 記念さくら植樹式

○「市営鹿折南住宅広場」(気仙沼市) 2021年11月4日(木) 14時00分～14時30分

公益財団法人日本さくらの会が主催する「東京 2020 オリンピック・パラリンピック聖火リレーさくら植樹プロジェクト」において、オリンピック聖火リレーの各都道府県のスタート地へさくらの苗木を植樹することで東京大会を記念し、後世にレガシーを伝承することを目的として実施されています。

宮城県で実施されたオリンピック聖火リレーのグランドスタート地である気仙沼市「市営鹿折南住宅広場」に、ジンダイアケボノ桜(3本)としだれ桜(2本)を植樹しました。



関係者による植樹



参加者全員で記念撮影

資料

聖火リレールート選定について(検討経過)

宮城県における聖火リレールート選定の考え方

《組織委員会における聖火リレールート選定の基本的な考え方》

- 原則
 - 日本全国47都道府県を回り、出来るだけ多くの人々が見に行くことができるルート
 - 安全かつ確実に聖火リレーが実施できる場所
- その上で
 - 地域が国内外に誇る場所や地域の新たな一面を気づかせる場所
 - 聖火が通ることによって人々に新たな希望をもたらすことができる場所

宮城県における聖火リレールート選定の考え方

〈東京2020オリンピック聖火リレー 宮城県実行委員会における方針〉

前提

- 東京2020大会は「復興五輪」と位置付けられていることから、その意義に鑑み、聖火リレーが被災地の現状や、復興支援への感謝と復興した姿を世界に発信する機会となるよう、「復興五輪」を体現するルートを検討する。



《ルート選定検討のポイント》

県内沿岸部の被災自治体(15市町)はルート選定の中心(軸)に位置付け、具体的ルートを検討する。

聖火リレールートを選定について（検討経過）

宮城県聖火リレーの通過市町村について

県内聖火リレー通過市町村順			
区間	1日目	2日目	3日目
1	気仙沼市	東松島市	山元町
2	南三陸町	(大衡村)★	亶理町
3	石巻市①	松島町	岩沼市①
4	石巻市②	塩竈市①	岩沼市②
5	女川町	塩竈市②	(仙台市)★
6		七ヶ浜町	(仙台市)★
7		多賀城市	名取市
8		利府町	仙台市①
9			仙台市②



1日目 (DAY1) 6/19(土) 各種セレモニーの実施場所について



聖火リレールートを選定について（検討経過）

2日目 (DAY2) 6/20(日) 各種セレモニーの実施場所について



3日目 (DAY3) 6/21(月) 各種セレモニーの実施場所について



聖火リレールートを選定について（検討経過）

聖火リレーにおける『特殊区間』について

「特殊区間」とは

道路幅が狭い・離島や遠隔地である等の理由により、通常隊列を帯同しないで聖火リレーを実施する区間。歴史的・文化的に国内外にPRできる場所（被災地も含む）。

本県における「特殊区間」選定の考え方

- ①東京2020大会のコンセプトである「復興五輪」に相応しく、震災時にストーリーがあるなど象徴的な場所や施設
- ②聖火リレールートから大きく外れず、リレーの運営に支障が無い場所や施設
- ③県の名勝地や、聖火リレーで走行することで本県の復興した姿を効果的にPR出来る場所や施設



1日目第3区間《旧北上川船舶運航》

- 毎年開催される石巻を象徴するイベント「石巻川開き祭り」は震災年も開催されたが、祭りのイベントの1つ「孫兵衛船競漕」は、船が津波で被災・壊滅したことで中止を余儀なくされたものの、震災から3年後の2014年に復活
- 競漕会場の「旧北上川」で孫兵衛船により聖火を繋ぐことで、津波被災地である石巻地域の復興した姿を発信する。



2日目第1区間《JR仙石線車両(下り線:野蒜駅→東矢本駅間)》

- 震災直後、鉄軌道上で車両が津波で押し流され、壊滅的な被害を受けたことで震災の脅威を世界に強く印象付けた鉄道
- この仙石線は、石巻圏と仙台圏の交流活性化に大きな役割を果たす重要な幹線であり、2015年5月30日に全線復旧した際には、待ちに待った沿線自治体が大いに喜んだ。
- 仙石線で聖火を運ぶことを通じて当時の記憶を呼びさますとともに、震災復興を発信する。



2日目第3区間

《景勝地「日本三景松島」(国宝瑞巖寺参道～松島湾内船舶運航)》

- 東北随一の禅刹として歴史を刻む「国宝瑞巖寺」や、震災時には湾内の島々が自然の防波堤として機能し、松島の街や人々を大津波の被害から守った松島湾内をリレーすることにより、震災のエピソードとともに国内有数の景勝地「日本三景松島」の歴史・文化の魅力を発信する。



3日目第8区間《仙台亘理自転車専用道(サイクリングロード)》

- 震災で被害を受け、復旧された貞山掘沿いにある「サイクリングロード」は、震災の復興支援及び震災の記憶を未来に残していくことを目的に、2018年には「ツール・ド・東北」のコースになっている。
- この「サイクリングロード(走行距離は約3.6km)」の一部を活用し、車いすランナーやロードレース用自転車聖火リレーを繋ぐことにより、共生社会の形成を広く発信する。